

《バングラデシュ情報》

バングラデシュでイスラム教徒がヒンズー教徒を襲撃

現在バングラデシュで巻き起こっている暴力は、SNSの誤用の危険性について再び問題提起している。この発端となったのは、フェイスブックの投稿とされている。少数派のヒンズー教徒のコミュニティが、イスラム教の聖典コーランを軽視して冒瀆(ぼうとく)したという内容だったという。これがイスラム教徒が多数派のバングラデシュで拡散され、ヒンズー教徒のコミュニティへの暴力に発展した。彼らの家は焼かれ、寺院は攻撃を受けたようだ。さらにこの事件がヒンズー教徒が多数派のインドに伝わり、インド人はモディ首相にバングラデシュへの問題提起を求めている。バングラデシュの国連常駐調整官はツイッターで、「ヒンズー教徒に対する最近の攻撃はSNSでのヘイトスピーチで煽られており、憲法の価値観に反している」と指摘した。バングラデシュ政府は状況の制御に取り組んでいる。

10月中旬、バングラデシュ関連情報の中に、上記のようなものがあつた。だが、その真偽は定かではなかつたので送信を止め、バングラデシュの友人に真相を調べてもらったところ、下記のような情報を送ってきた。これらの情報は、私に、10年前のバングラデシュのラム市での仏教徒襲撃事件を強く想起させるものである。残念ながら、今回の襲撃事件は、私の目で検証することはできていないので、コロナ終息後、ただちに出かけてみる予定だ。なお、わが社のダッカ工場内では、この影響は全くなく、通常操業を続行している。

1. ヒンズー教の祭りで暴力発生 7人死亡

ザ・ガーディアン 2021年10月16日(土)より

バングラデシュではイスラム教の聖典の冒瀆の申し立てがあり、数十のヒンズー教寺院が襲撃され、警察が群衆に発砲、そして人命を奪う暴力事件が発生した。少なくとも7人がこの暴動で死亡した。水曜日にクミッタ市で宗教の対立による緊張と暴力が発生し、政府は準軍隊を22の地区に配備し、警察が群衆に向かって発砲した後4人のイスラム教徒が死亡した。金曜日と土曜日に首都ダッカと南部の町ベグムガンジでさらなる暴力が勃発した。これらの暴力事件ではひとりのイスラム教徒とふたりのヒンズー教徒が死亡し、このうち一人は刺し傷で死亡した。この混乱はイスラム教の聖典である聖コーランがドルガ・プジャというヒンズー教の聖なる祭典設置された神殿に祭られたヒンズー教の神ハヌマーンの像の膝の下に置かれたというソーシャルメディア全体に広がるビデオとその訴えによって引き起こされた。今週の初めフェイスブックでビデオが話題になり、冒瀆の疑いで500人以上の暴徒がクミッタと近隣の地区に集まった。約10のヒンズー教の寺院や神社が群衆に襲われ破壊された。群衆は石を投げ、ヒンズー教の神々の像を破壊した。クミッタでは警察が催涙ガスを発射し、群衆に発砲した。数人の警察を含む数十人が負傷した。反ヒンズー教の暴動は金曜日そして土曜日まで続いた。ドルガ・プジャ祭のために設置された80以上の特別な寺院が攻撃され、約150人のヒンズー教徒が負傷そして二人が死亡した。金曜日首相のシェイク・ハシナはそれに応じて厳しい行動をとることを約束した。「クミッタでの事件は徹底的に調査する」とハシナは言った。「誰も逃れることはできない。彼らなどのような宗教に属しているかは関係ない。彼らは追い詰められ罰せられる」、宗教担当大臣Md.ファリドゥール・ハック・カンは聖コーランに関する事件に関しては捜査されると述べ、コミュニティの調和は保護されるべきであり、自らの手で人々を裁かないように求めた。与党アワミ連盟政府の

大臣であるオバイドゥル・カダールは暴動が起きたすぐ後にヒンズー教の寺院を訪れた。彼は『狂信的な要素』がヒンズー教の祭りへの襲撃の原因であると述べ、政府に「彼らには彼らの邪悪な計画を続行させない」と付け加えた。バングラデシュ・ヒンズー教統一評議会はツイートでこの24時間に起きたことは『公表できなかった』と述べたが、ヒンズー教徒は一部の人々の素顔を見たと述べた。「将来何が起きるかわからない。しかし、バングラデシュのヒンズー教徒は2021年のドルガ・プジャを決して忘れないであろう」と続けた。ヒンズー教の宗教指導者たちは、この攻撃は彼らのコミュニティを攻撃するための陰謀の一部であると訴えた。ヒンズー教徒はイスラム教徒が多数を占めるこの国で10%を占めている。8月にはクルナ・ディストリクトで4つのヒンズー教寺院が襲撃され、3月にはインドのナレンドラ・モディ首相の訪問中に硬派のイスラム教のグループがヒンズー教の寺院を襲撃した。最初の動乱はヒンズー教が大多数を占める隣国のインドで怒りを引き起こした。木曜日に、インド政府のスポークスマン、アリンドラム・バグチは事件を『邪悪』と表現し、当局はこれらの襲撃についてバングラデシュ当局と連絡を取り合っていると述べた。

2. バングラデシュを揺るがせた 共同体での暴動 :これまでにここで起きたこと

インディアン・エクスプレス 2021年10月18日(月)より

先週バングラデシュで行われたドルガ・プジャの祭典で起きた共同体での暴動と騒乱で少なくとも6人が死亡し、数百人が負傷した。正体のわからないイスラム教徒の男たちによる少数派のコミュニティの寺院への襲撃が全国から報告された。PTIによるとこれらの襲撃はチャンドプールに隣接し、ダッカから100キロメートル離れたクミッラのドルガ・プジャ・パビリオンで冒流事件が発生した後、暴動化し行政地区の半分以上に準軍隊が配備された。バングラデシュのシェイク・ハシナ首相はヒンズー教の寺院やドルガ・プジャの会場への襲撃に関与した者は誰も逃れることはできないと述べ、襲撃の背後にある犯人を裁判にかけることを約束した。これまでに起こったことは次の通りである。

冒流事件の疑い

ソーシャルメディアで広く流布された映像が、クミッラの東部地区でドルガ・プジャの祭典行事で冒流事件を起こしたと訴えがあり、水曜日に国の緊張が高まった。破壊行為事件はチャンドプールのハジガンジ、チョットグラムのバングシュカリ、コックスバザールのペクアヒンズー教の寺院から報告されたとbdnews24.com は伝えた。ダッカ・トリビューン紙は、ある段階で状況が制御不能となり、暴動が多くのドルガ・プジャ広がり始めたと報じた。地方行政と警察は法と秩序を維持しようとして攻撃を受けたと続けた。

さらなる襲撃と抗議

木曜日(10月14日)ISKCON寺院が破壊され、全国の共同体(コミュニティ)の緊張を掻き立てようと信者が暴徒に殺された。インディアン・エクスプレスが報じたように、ノアカリのISKCON寺院への襲撃は、そこでのヒンズー教徒のコミュニティに衝撃を与え、路上での抗議となった。情報筋によると、問題を引き起こし二つのコミュニティ間の対立を引き起こそうとしている**バングラデシュのイスラム過激派グループの関与**の可能性が調査されている。PTIによると、散発的な攻撃と破壊行為も金曜日に報告され、当局はノアカリ地区での禁止命令を出し、夜明けから夕暮れまでの集会を禁止した。AP通信はまた、金曜日の集団礼拝の後ダッカで何千もの人々が警察と衝突したと伝えた。ダッカ・メトロポリタン警察のサッジャド・ホセイン副長官は警察が群衆を分散させるためにラティチャーージと催涙ガスを使用させたため、数人が述べた。抗議者たちは反インドのスローガンを叫び、ハシナを『ニュー・デーリー寄りだ』と非難した。土曜日には1万人近くのデモ参加者が再び首都にある国会議事堂のメイン・モスクの外に集まった。DWによると、群衆が増えたとき、多くの人々が『イスラムの敵とともに』『犯人を吊るす』と叫びな

がら、イスラム教政党の旗を掲げていたのが目撃された。日曜日地元メディアの報道では、ダッカから約157キロメートル離れたフェニでヒンズー教の寺院や商店が破壊されたと再び報じた。ダッカ・トリビューン紙によると、衝突はバングラデシュのいくつかの場所でのドルガ・プジャ会場への襲撃に抗議していたデモ参加者への攻撃の後発生した。またこれらの襲撃は、バングラデシュのヒンズー教仏教イスラム教統一評議会にプロテスト中10月23日から座り込みとハンガーストライキを行うと発表するよう促した。このフォーラムの会長であるミラン・カンティ・ドゥッタは政府が彼らの要求に注意を払わないなら、彼らはより厳しい運動を開始すると述べた。bdnews24.com によると、ダッカからや区255キロメートルにあるランプール・ディストリクトのピルゴンジ・ウポジラの近くにあるバングラデシュのヒンズー教徒のいくつかの家屋も、日曜日の遅くに放火された。

『焼き討ちしろ』

バングラデシュのシェイク・ハシナ首相は厳格な行動を約束し、事件は徹底的に調査され、『誰も逃れることはできない』と述べた。ヒンズー教のコミュニティ・ダッカのイベントでのスピーチの中でハシナ首相は次のように述べている。「クミッタの事件は徹底的に捜査される。誰も逃れることはできない、この宗教に属しているかは問題ではない。彼らは追い込まれ、罰せられる」また彼女は「バングラデシュでの悪影響が発生する可能性があるため、インドが国内でいかなる反応に対しても何らかの措置を講じることを望んでいる。「バングラデシュのあらゆる状況に影響を及ぼし、このヒンズー教徒のコミュニティに影響を与える可能性があるが、インドでは何も起きないことを我々は願っている」と彼女は続けた。またハシナ首相はバングラデシュの1億6900万人のうち10%を占めるヒンズー教のコミュニティの代表者にドルガ女神を崇拝する祭りの間、暴動がないことを保証するためにあらゆる予防策を講じていると言った。

少数派への襲撃上昇

バングラデシュの著名な権利グループであるアイン・オ・サリシュ・ケンドラ(ASK)から引用して、2013年1月から今年9月にかけて、バングラデシュで少数派のヒンズー教徒コミュニティに対する襲撃が3,679件も発生したことをbdnews24.com は報告した。襲撃にはヒンズー教コミュニティの559軒の家屋、442の店舗、そして企業への破壊行為と放火が含まれていると続けた。この権利グループによると、ヒンズー教の寺院、偶像、礼拝所に対する破壊行為と放火襲撃の少なくとも1,678件も同時期に発生している。ヒンズー教のコミュニティから11人の市民がこれらの事件で死亡し、862人が負傷したと報告している。また2014年には少数派のコミュニティから二人の女性がレイプされ、4人が性的嫌がらせを受けていると報告し、2016、2017そして2020年には少なくとも10のヒンズー教の家族がその家と土地から追放されたことも付け加えた。

インドでの注意

インドでは西ベンガル政府が月曜日近隣国のドルガ・プジャで最近相次ぐ襲撃に関するソーシャルメディアの悪用と偽りのニュースを流していることに対し、その地区行政特にバングラデシュと国境を接する行政地区に警告した。PTIによると、政府は法と秩序を維持するための措置を講じるように彼らに促した。一方バングラデシュのISKCON寺院での破壊行為とアシュラム教信者の殺害が報告された後、コルカタのISKCON副会長であるラダラムン・ダスは国連に書簡を送り、この世界団体にインドの隣国に代表団を派遣してこれらの事件について捜査するように要請した。また彼はナレンドラ・モディ首相に書簡を送り、ヒンズー教徒の少数派に対する現在起きている『暴力』を終わらせるために、バングラデシュの受け入れ担当機関と会談をするように促した。トリプラ州のビプラブ・クマール・デブ・主任大臣も寺院の破壊について懸念を表明したが、シェイク・ハシナ首相率いる政府が加害者に対し行動を起こすことの確信も表明した。

3. クミッラ騒乱 : 解き放たれた増悪の記録

ザ・デーリースター 2021年10月18日(土)より

10月13日の午前7時頃、30歳のエクラム・ホセインが999に通報し、クミッラ市のナヌア・ディギール・パール・プジャでの聖コーランの名誉冒瀆の疑いについて警察に報告した。数分以内に、コトワリ警察署の私服警察がプジャ会場の祭殿に現れた。彼はそこに一人で行った。午前7時から7時半の間にファエズ・アハメドという男性が現場からフェイスブックにライブ公開を始め、名誉冒瀆の疑いで目を覚まし抗議するよう人々に促した。また彼は56秒のライブ・ビデオでアンワール・アジムOC見せた。すぐに若者の少数グループが行動に突入した。彼らはこのビデオをフェイスブックで共有を開始した。午前8時までには人々は 祭殿に流れ始めた。そして1時間以内にはその群衆が何百人と膨れ上がった。その間、ワード・カウンセラーのエムラン・バッチューは群衆が入れないようにマンダブ(祭りのための特別会場)の周りに竹の柵を立てた。状況が暴走する恐れがあったので、午前10時から午前10時30分までの間に40人から50人の警察とともにMd. カムルール・ハサン副コミッショナーと警察官のファルク・アハメドが現場に到着した。マンダブからからわずか300メートルの所に住むクミッラ市長のモニフル・ハク・サックはその現場にはどこにも姿が見えなかった。ヒンズー教徒のコミュニティの人々は彼を現場へ直行するよう嘆願し、当局は彼に電話をかけたが、彼は午前10時まで姿を見せなかった。DC、PSそして評議員、スエド・アハメド・ソヘルという名のパネル市長、そして地元のモスクのいくつかの指導者(イマーム)が事態を落ち着かせようとしていた。しかし、6~7人の若い男たちのグループは赤いスポーツ・ジャージーを着ている者もあり、彼らと激しい言い争いをしていた。しかし暴徒の数は膨れ上がり、11時30分までには彼らはマンダブを破壊し始めた。数分後、追加の警察隊が呼ばれ、警官たちは群衆を解散させるために発砲した。50人くらいに人々が軽傷を負った。その間DC、SPそして市長は近くの民家に避難していた。警察と群衆の間の追跡と報復の繰り返しは午後4時まで続いた。フォエズとエクラムはその朝逮捕され、現在は拘束されている。午後12時から午後2時までの間クミッラ郊外の少なくとも10か所から市の中心部と考えられているプバリ・チャッタールに向かってデモ行進が行われた。彼ら街中を扇動し、カリガット・トラ、チャンモイ・カリバリ・モンディールそしてアナンダモイの三つの寺院と14のプジャ・マンダブを破壊した。デーリースターは少なくとも50人の地元の人々の話を聞き、12を超えるビデオ・クリップを見た後で、一連の事件をまとめた。いくつかのクリップには主に10代の若者が先頭に立っている行列が映し出されていた。彼らは寺院やマンダブを破壊し回り、流血を意味したスローガンを唱えていた。クミッラ市プジャ・ウジャパン・ポリシヤド局長であるアチンチョ・ダス・ティトゥは、騒乱は午前11時ごろから始まり、深夜まで続いたと述べた。今年には市内に91か所にマンダブが設置された。

襲撃者は誰か。

ナヌア・ディギール・パールの地元の人々は、襲撃者は部外者であり、ほとんどが10代の若者であったと言った。彼らは郊外から来た。マジュムダール・バリの居住者であるアマナト・マジュムダール(90歳)は多くの地元住民が襲撃者を阻止するために最善を尽くしたが、大洪水のように流れ込んできたために失敗したとデーリースターに語った。「私たちの住んでいる近隣の大部分がヒンズー教徒である。しかし我々に対して問題を起こしたことは一度もない。我々は100年以上も調和して暮らしてきた。私はこれまでにクミッラでこのような事件を一度も見ただことはない」と彼は言った。この地域の別の住人であるイスラム・アハメドはイスラムの侮辱されたという訴えはヒンズー教徒によって行われたはずはないと言った。「それ(聖コーランが冒瀆されたという訴え)は事前に計画されたものと思われる。この調和を壊すために一部の者がやった可能性がある」と彼は続けた。ナヌア・ディギール・ウッタール・パール・マンダブは1990年からここで行われている。デーリースターは、ドルガ・プジャの3日目であるアシュタミの朝に何が起きたのかを知るためにマンダブから数ヤード離れた建物の世話人と話をした。「私は毎日午

前7時から任務に就いている。ここに来た時、二人の女性と二人の男性を見た。これらの若者のうち一人が999に通報し、コトワリ警察署のOCが20分以内に到着した。部外者がマンダブを覗き込むのを防ぐカーテンがあるので、内部で何が起きているのか正確にはわからなかった」と彼は言った。午前7時過ぎに何十人の人々がそこに集まってきたと彼は付け加えた。999に通報したエクラム・ホセインは現場から1.5キロメートル離れたところに住んでおり、フォエズ・アハメドは1年前にサウジアラビアから帰国したばかりであった。彼は現在二つの店舗を所有しておりクミッラ市サッタール・カン地区で衣服や携帯電話を販売していると地元住民は言った。エクラムの母親セリナ・アクターはデーリースターに「私の息子は行方不明になっていた。彼は10月12日に家族とけんかをし、その後、家を出た。10月13日警察が息子を逮捕したと聞いた」マンダブのスーパーバイザーはデーリースターに礼拝儀式を終えた後10月13日の午前2時30分にマンダブを離れたと言った。午前7時30分何者かが聖コーランをヒンズーの神の一つであるゴネシュのパンテオンに置いたことを電話で知った。「私はすぐにプジャ委員会の幹部にこのことを伝えた。マンダブに到着した時、OCと二人が話しているのを見た。すぐに群衆がディギ(池)の西側と東側に集まってきた」と彼は言った。「この地域のヒンズー教徒とイスラム教徒の間での絆と調和を考えて、マンダブにCCTVは設置されていなかった。追加のセキュリティが必要になるとは考えてもいなかった。これを何者かが利用したのだ」と彼は付け加えた。

遅れて到着した市長

連絡を受けた、モニルール・ハック・サックは「私は通常午前8時に起床する。だから午前7時にかかってきたOCからの電話に出ることができなかった。午前8時にOCからもう一度電話がかかってきたときに直ちに現場に来てほしいと要請があった」と彼は言った。「そこに行くまでに1時間半はかかると私は言った。その間にプジャ委員会のメンバーが幾人か来て、この事件の様子を私に説明した。私か彼らの現場に戻りそこにいるように要請した。私は9時半ごろ現場に到着した。そこには100人から150人の人々がいた。私は人々に冷静になるように求めた。DCとSPの前で群衆を説得しようとしたが無駄であった。ある段階から状況が悪化を始めたので、私はシティ・コーポレーションの40人の職員に電話をし、マンダブに残っている者たちを追い払った。私はプジャ委員会にCCTVをいくつか取り付けよう求めたが、これらは取り付けられなかった」、すぐ近くに住んでいるのになぜこのように到着が遅れたのかという質問に対し、彼は一つはっきりしたことを応えることはできなかった。「起床し、入浴し、服を着替え家を出る必要があった。それにはすべて時間がかかる」と彼は言った。

遅れた警察の行動

コトワリOCは午前7時から7時半の間に一人で現場に到着した。SPは午前10時ごろに行った。襲撃は午前11時に始まり、暴徒の群れはその間大きくなり組織化された。襲撃の後RAB軍と追加の警察が襲撃者を解散させた。クミッラのSPであるファルク・アハメドはより多くの部隊を集めるのに4時間以上かかった理由を尋ねられ、状況を封じ込めるのに十分な部隊はあったが、この問題について詳しく説明するのは拒否した。コトワリOCのアンワルール・アジムはデーリースターに他の者よりも早く現場にいたエクラムとフォエズの両者は逮捕されていると言った。「我々は彼らがなぜそのような早朝にそこに行ったのか、そしてフェイスブック・ライブの動機がなんであるのかについての情報を収集しようとしている。」と彼は言った。男がマンダブを撮影しているのを止められなかった理由を尋ねられた彼は「情報を収集するが、質問は受け付けない。」と彼は記者に行った。警察は4件の訴訟をし、RABは襲撃について1件の訴訟をした。一件は宗教的感情を傷つけたとして訴訟された。また別の一件はデジタル・セキュリティ法に基づいており、他の2件は特別権限法に基づいている。警察は10月16日の時点で39人を逮捕したと述べた。